

品名		液 化 空 気										国連番号	1003				
												指針番号	122				
該 当 法 規 ・ 危 険 有 害 性																	
消 防 法						毒物及び劇物取締法			高圧ガス保安法		火薬類取締法		道 路 法				
類 別						指 定 可 燃 物	品 名 (法別表)	毒 物	劇 物	特 定 毒 物	一 般 高 圧 ガ ス	液 化 石 油 ガ ス	火 薬	爆 薬	火 工 品	施行令 第19条の 13に該当	
第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類												
特 性	危 険 性			有 害 性				環 境 汚 染 性		性 状							
	禁 水 性	爆 発 性	可 燃 性	有 害 ガ ス 発 生			眼・皮膚に触 れると危険	河川への 流入注意	固 体	液 体	気 体	水 溶 性					
				常 温	加 熱 時 火 災 時	水 に 接 触								●			●
事故発生時の応急措置 ① 車を安全な場所に移動する。(アスファルト舗装上、及び人家や人ごみを避け、できるだけ交通の障害にならないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。) ② 付近に火気使用の中止を呼びかける。木、紙、油等の可燃物を取り除く。 ③ 事故の発生を大声で告げ、下記事項を消防署及び警察署に通報し、風上に避難させる。 ④ 保護具(乾いた革手袋、保護眼鏡等)を着用し、風上より災害拡大防止措置(漏れ止め、容器移動等)を行う。(油がついた工具や手袋は絶対に使用しないこと。凍傷にも注意すること。) ⑤ 下記事項を関係機関(荷主会社、運送会社、地域防災組織等)へも連絡する。																	
緊急通報 119 (消防署) 110 (警察署) 高速道路の非常電話 [緊急通報例] ① いつ ○○時○○分頃 ② どこで ○○市○○地区(国・県・市)道○○号線○○付近で ③ なにか 「液化空気(高圧ガス・支燃性)」が ④ どうした 漏れています ⑤ ケガ人は ケガ人がいます(救急車をお願いします) / ケガ人はいません ⑥ 私の名前は ○○運送会社 ○○です																	
緊急連絡 (特に休日・夜間に確実に連絡がとれる部署の電話番号を記入する)																	
荷主会社														運送会社			
住 所														住 所			
電 話				平日・昼間								平日・昼間					
				休日・夜間								休日・夜間					

品名	液 化 空 気	国連番号	1003
		指針番号	122
災 害 拡 大 防 止 措 置			
処理剤	—		
特記事項			
<p>① 液化空気の温度は、-194°C（大気圧）と極めて低温であり直接皮膚に触れると凍傷を起こすので、作業をするときは乾いた革手袋、保護眼鏡又は保護面、及び保護靴等を着用する。</p> <p>② 空気は支燃性ガスであり、高圧下では油脂類に着火すると激しく燃焼を起こすので、作業を行うときは、油が付いた工具や手袋は使用しないようにするとともに、手や衣服への油脂類の付着がないかを作業前に確認すること。</p> <p>③ 蒸気圧： — 相対密度：【液】0.88（水＝1） 【ガス】1 色・におい：【液】薄青色・無臭 【ガス】無色・無臭</p>			
漏えいしたとき			
<p>① 付近に火気使用の中止を呼びかける。木、紙、油等の可燃物を取り除く。</p> <p>② 液化空気は気化すると約720倍の体積となるので、換気を良くする。</p> <p>③ 液化空気は極めて低い温度であるので、作業の際には、乾いた革手袋及び他の保護具を着用する。（油が付いた工具や手袋は使用しないようにするとともに、手や衣服への油脂類の付着がないかを作業前に確認すること。）</p> <p>④ バルブ、継手類及び配管より漏えいした場合、風上でかつ漏えいしている液又はガスの吹き出し方向の反対側より、上流側のバルブを閉め、防災工具を用い継手の増締め等の漏えい防止作業を行う。ただし、安全弁元弁は決して閉止しないこと。</p> <p>⑤ 漏れが止まらないときは、着火源を避け通風が良好で安全な場所で少量ずつ大気に拡散させる。大量に漏えいしている場合は、周囲に人を近づけないようにする。</p>			
周辺火災のとき			
<p>① 速やかに容器を安全な場所へ移動する。</p> <p>② 移動不可能な場合は、容器の破裂防止のために散水して容器を冷却する。</p>			
緊急措置			
<p>① 凍傷の場合 凍傷部分をこすってはならない。凍傷を起こした部分の衣服を取り除く。ただし、衣服が凍り付いて取れないときは、無理に取らないで、その他の部分のみ衣服を切り取る。患部を温湯で徐々にあたためる。その後、ガーゼなどで保護して医師の手当てを受ける。</p> <p>② 眼に入った場合 噴出ガスを受けた場合、冷却しすぐに医師の手当てを受ける。</p> <p>③ 火傷の場合 水を用いて患部を冷やし、できるだけ早く医師の手当てを受ける。</p>			